

生産性倍増に向けた取り組み状況

(2025年度)

2026年6月 東京電力ホールディングス株式会社



目次

1.	生産性倍増に向けた主な取り組み事例	03
2.	経営合理化の取り組み状況	06

1. 生産性倍増に向けた主な取り組み事例

日本初！多条敷設HDD工法の適用

～ 電力管敷設における
4条一括引込への挑戦 ～

生産性倍増
プロジェクト

カイゼン
事例紹介
01

カイゼン
ポイント
と結果

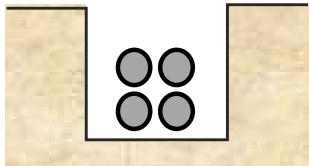
東京電力パワーグリッド株式会社

発電所で作られた電気をお客さまへ送る地中電力ケーブルを収容する管は、約7割を道路開削工事により敷設しています。一方、埋設物の輻輳や車両通行への影響を回避する必要がある区間では、道路を開削しない非開削工事を約3割で適用しています。非開削工事では、立坑設置・撤去で長期間の工事となるため、立坑が不要な日本初となる多条敷設HDD工法により、短期間で工事を実現するものです。

<カイゼン前>

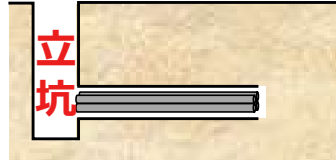
●開削工事

道路を掘削して
電力管を敷設

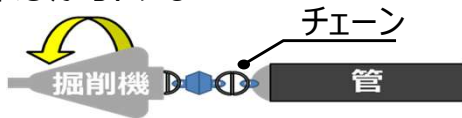


●非開削工事

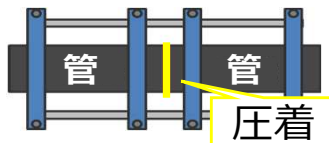
道路を掘削しな
いで、立坑から
電力管を敷設



●従来のHDD工法では、電力管を
1条しか引けない



●加熱圧着により管を接続

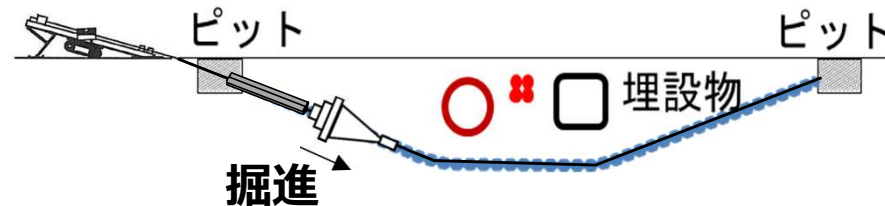


<カイゼン後>

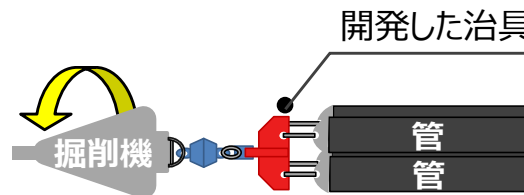
●非開削工事

今回、**HDD工法**※を日本で初めて採用し、立坑を無くす

※Horizontal Directional Drilling (誘導式水平ドリル工法)



●電力管を4条一括で引ける
掘削機と管の連結治具を開発



●機械式により管を接続



管接続作業時間 **▲99%**達成！

コスト削減：▲55%、工程削減：▲55% (18⇒8ヶ月)

✓ 供給早期化

✓ 地域共生

✓ 安全性向上

✓ 生産性向上

1. 生産性倍増に向けた主な取り組み事例

～水路断水しない土砂排除技術の内製化～

水力発電所の土砂排除作業カイゼン

生産性倍増
プロジェクト

カイゼン
事例紹介
02

カイゼン
ポイント
と結果

東京電力リニューアブルパワー株式会社

水力発電所の水路には、水と共に流下した土砂が堆積します。たくさん堆砂すると水が流れなくなり発電に支障が出るので、排砂門を大きく開け、土砂を水の力で押し流します。それでも残った土砂は人力で取り除きます。その間、発電所へ送水できないため発電を停止しておりました。そこで、発電所へ送水しながら土砂を排出する仕組みを現場で考案し、作業負担と発電ロスを削減。収益向上につなげています。

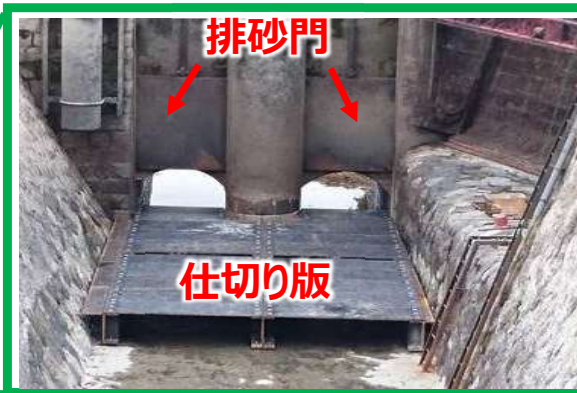
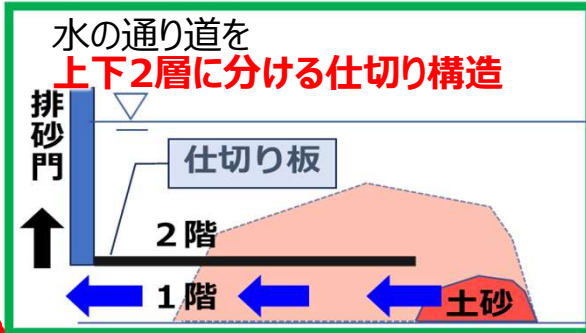
<カイゼン前>



土砂が発電所へ流下すると水車に悪影響がでるそのため、堆砂に応じ土砂出しを実施している
溢水電力過大 (頻繁な発電所停止)
排除作業人件費

<カイゼン後>

土砂を自然に排出させる仕組み



発電継続のまま堆積土砂を**80%排出**

『**無くす**』 溢水電力 + 排除作業

溢水電力減 = 収益増 : +17.8百万円/年
人件費削減 = 費用減 : △2.67百万円/年

利益 +20 百万円/年

1. 生産性倍増に向けた主な取り組み事例

軽いマシンで切り拓く！地質調査の効率革命！～現場の想いをカタチに～

生産性倍増
プロジェクト

カイゼン
事例紹介
03

カイゼン
ポイント
と結果

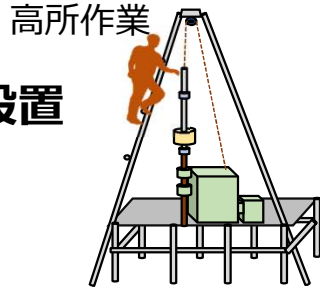
東京電力パワーグリッド株式会社

発電所で作られた電気をお客さまへ送電する送電鉄塔の建設にあたっては、設置する場所の地盤調査により、送電鉄塔を支える基礎を決定しています。

地盤調査では、60年前から変わらない掘削機等を使用しており、山岳地への運搬のムダをなくすため軽量化・効率化に取組み、安全性向上と工期短縮を実現するものです。

<カイゼン前>

✓ 大型足場と
ボーリングマシン設置



✓ 大型掘削マシン
深度100mまで調査可能なエンジン搭載



出典：東邦地下工機

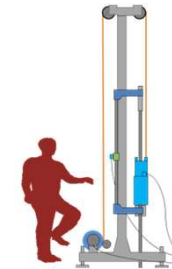
✓ 1000kgの水を
モルレールで運搬



<カイゼン後>

✓ 足場レス + 小型マシン設置

- ・マシン一体構造で足場レス
- ・支柱構造を見直し作業性向上



地上作業

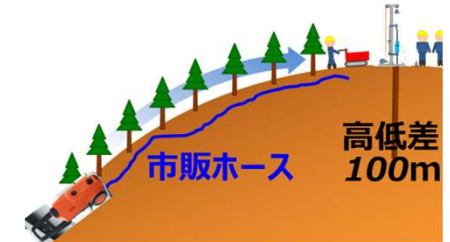
✓ 小型掘削マシン

- ・必要最低限の仕様に見直し
(深度30m、地盤強度試験のみ)
- ・過剰なエンジンスペックをサイズダウン
- ・強度試験に限った仕様へ



✓ 市販品の高圧洗浄機で送水

- ・“運ぶ”から“送る”に発想を転換
- ・試行錯誤し、高圧洗浄機で送水



出典：アイリスオオヤマ

生産性向上：▲10,800 人・時間/年 (▲87%)

コスト削減：▲40%、工程削減：▲85% (3.5⇒0.5ヶ月)

✓ 安全性向上 ✓ 生産性向上

✓ 同業他社への水平展開

2. 経営合理化の取り組み状況

2025年度のコスト削減実績と施策別内訳

◆ 2025年度のコスト削減実績は4,745億円※であり、目標(2,851億円)を1,893億円超過達成しました。

電気事業営業費用

(億円)

60,000

58,000

56,000

54,000

52,000

0

震災前水準

単価減

中止・規模減

実績
(物価上昇影響補正後)

57,994

(3,662)

(1,082)

53,249

コスト削減実績
4,745億円※

- ◆ 実質的な競争調達環境の実現による取引価格の低減(▲589)
- ◆ 子会社・関連会社と協働したコスト削減への取り組みによる取引価格の低減(▲754)

- ◆ 設備投資削減による減価償却費の減(▲17)
- ◆ 工事・補修の実施時期・規模見直し(▲829)
- ◆ 保全高度化による点検・補修周期の見直し(▲278)

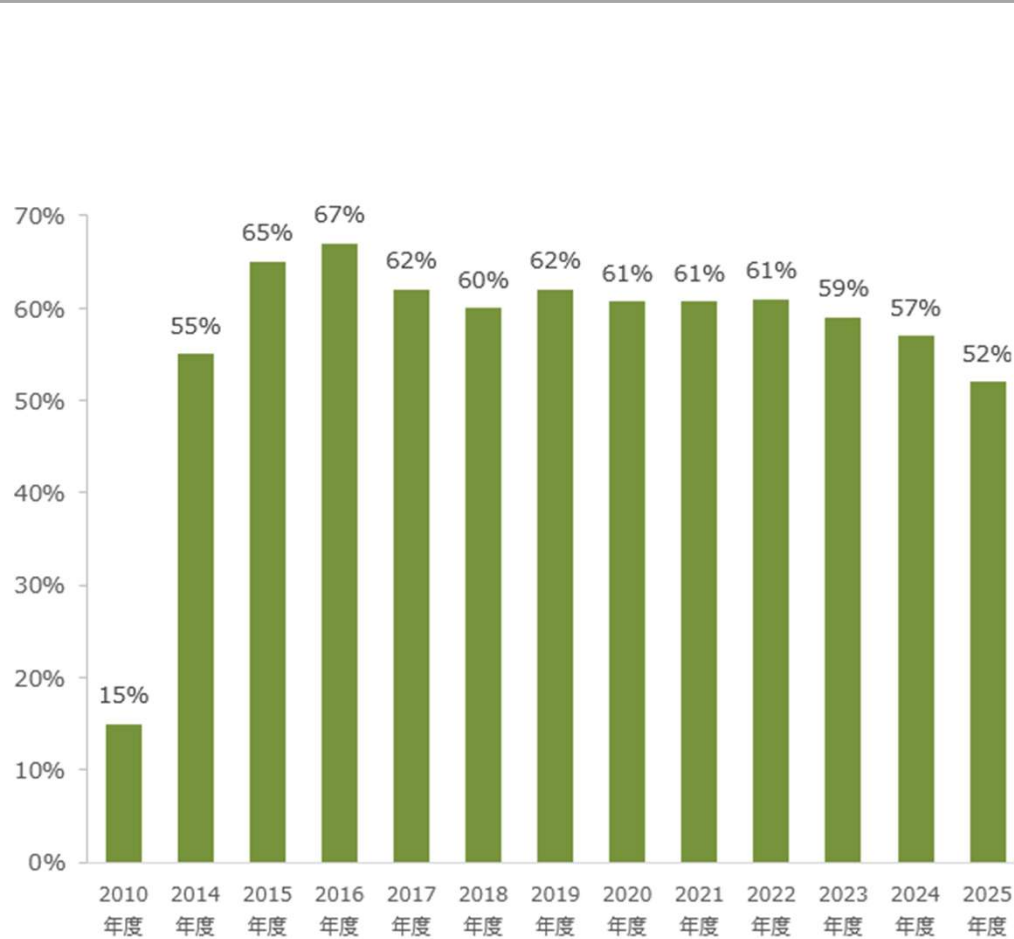
※震災前計画と2025年度実績値を基に物価上昇影響を補正した値

2. 経営合理化の取り組み状況

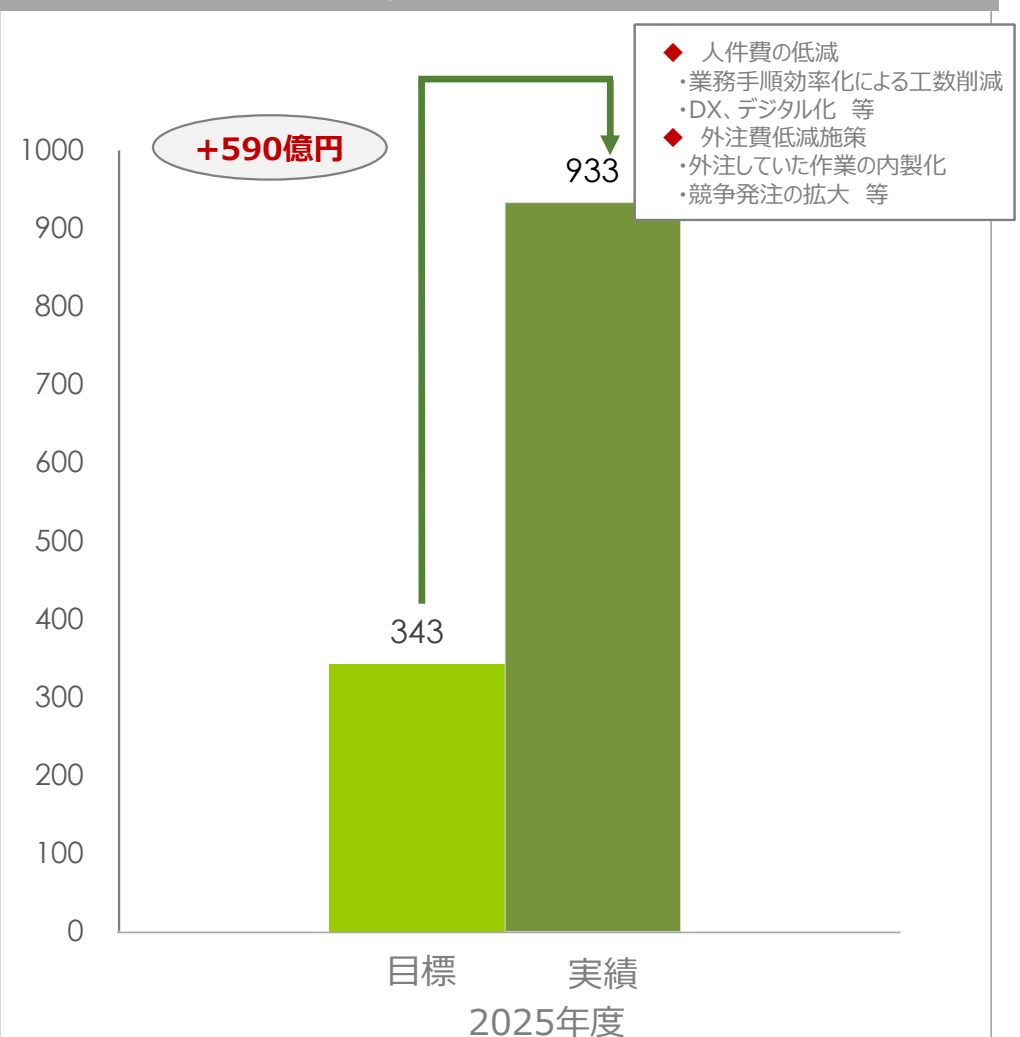
競争調達比率拡大・主要子会社のコスト削減実績

- ◆ 昨今の国内外の情勢変化を踏まえ、原価低減と安定調達の両立に向け戦略的パートナー契約等も導入しつつ競争率5割を維持しました。
- ◆ 主要子会社のコスト削減額は、2025年度目標343億円に対し、590億円超過達成しました。

競争調達比率実績



主要子会社のコスト削減実績

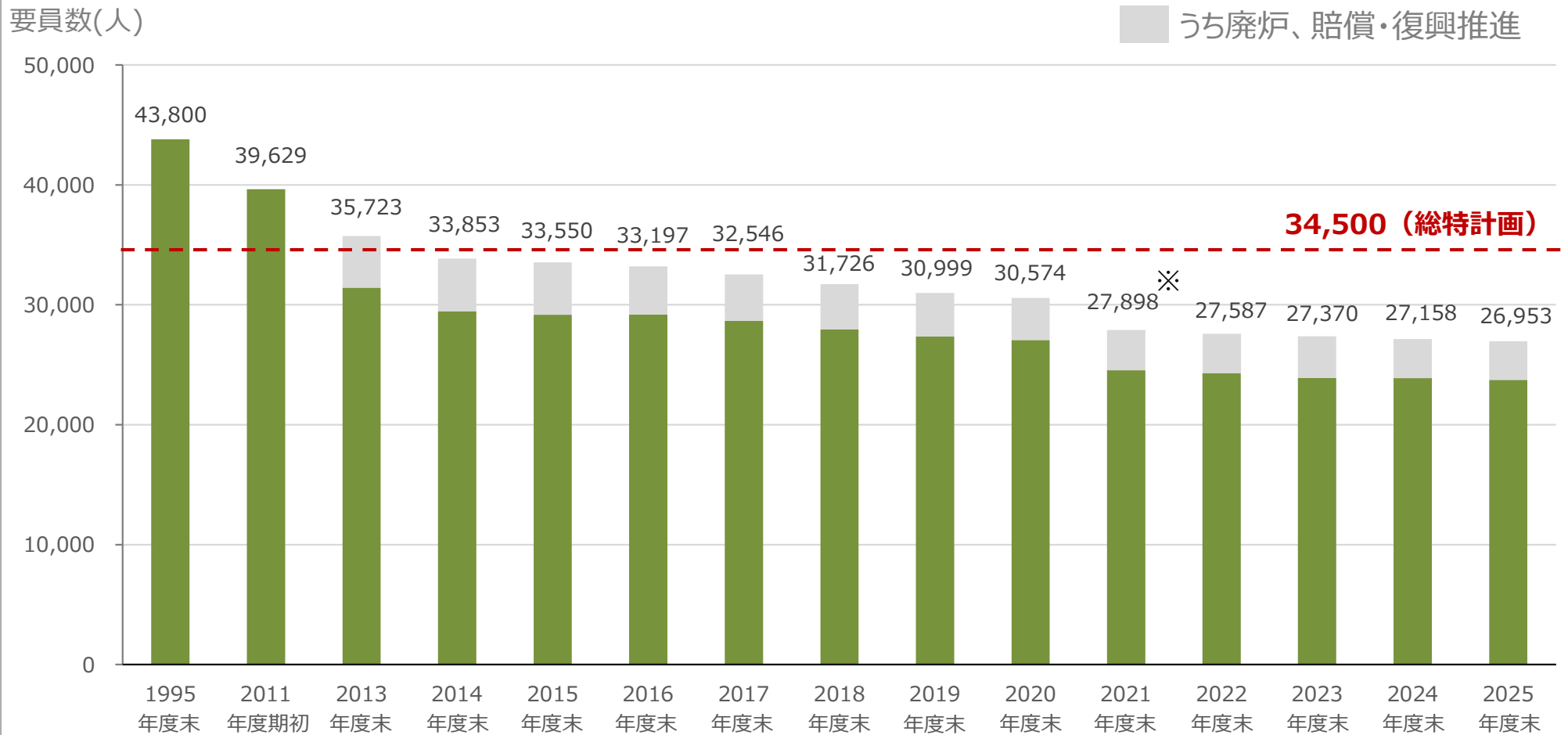


2. 経営合理化の取り組み状況

要員効率化について

◆ 「総特」における10年間の人員削減計画を前倒して達成した以降も、継続して効率的な事業運営に取り組んでおります。

要員効率化実績



※2020年度末から2021年度末にかけての要員減には、燃料・火力事業等における(株)JERAへの事業統合に伴う同社への転籍影響(約2,300人)を含む